

平成24年度 権利擁護セミナー高山塾

Group

A

解
怪傑

決



The 対象

対象：初年度末を迎えた新人職員（経過1年）
非常勤・アルバイト等を含む

The 目的

当事者の権利を擁護できる職員の育成を図る。

The 根拠

新人職員としての経験や、支援のプロセスに対して未熟であるがゆえ職員本人の意に反して権利を侵害してしまっている現状がある。

そこで！本ツールを活用することにより様々な可能性を思案し、順序立てて考え方支援にあたることにより当事者主体の支援を実施するための力を受けられるようにする。

The 取扱い説明

①から矢印の順番に進んでください。

課題、ニーズの対象は利用者一人とし、ベテラン職員等、先輩に適度な内容を提示してもらいましょう。途中、分からぬことや自信の無い場合は先輩や他の職員にもたずねても構いません。

準備：

ある程度、新人職員が個別に進められる期間を提供し、期限までに⑥までを進めておいてもらう（資料や資源数に限りがある課題や、同時に複数の職員が現場から離れてしまうことを防ぐため。）

1. ①にニーズを記入
2. ②に可能な限り知っている情報（基礎情報）を記入。
3. ②に記入した内容が原因だかを考えて記入してみましょう。
4. ③に対し普段どのようなことを意識して対処しているかを記入しましょう。
5. ④で気になった項目のNo.を⑤に記入し、それに沿った内容に対し更に出来る事がないかを記入。
6. ⑤で記入した内容をもとに支援方法、対策を考え記入する。
7. **ディスカッションTIME!**

ここまで出来たら、単独で行った場合は先輩（ベテランとか中堅かも）、新人が複数いる場合は新人同士でお互いの情報を持ち寄り支援方法を再考しましょう。

8. ディスカッションによって導かれた結果を「解決したニーズ」と「残されたニーズに分け」記入する。
9. ディスカッションにて残されたニーズがあれば新たな用紙の①に記入する。

この一連のプロセスを実施することで、様々な可能性に気づき、思案、順序立てた支援を行うことが出来る様になり、当事者主体の支援を実施するための力を付けられるようにしたいと考えています。

プロとして従事
するのだ。



研修で学んだ事・自分なりにこれから活かしていくこと

『権利擁護的な内容を日常業務の中では忘れるのがちであるが、福祉職に就いている以上、権利擁護に反することは無くて当たり前なんだ』と言うことに、改めて気付かされた。また、このツールは日頃のケース会議にも応用できる書式であり、それを見付けられたことにも意義ある研修であった。

権利擁護という今後の福祉事業において大きく影響するであろう研修においても全員集まることすら困難な状況を目の当たりにしました。

特に事業間の連携やが重要視される中、権利擁護という課題同様に大きな過大だと痛感しました。

今回、研修に参加させていただき、自分自身の支援の振り返りができました。権利擁護というものの自体とてもグレーな位置づけであること、現場での実情、理想の遠さを学ぶとともに今回のツール作りに取り組む際もグループの集まりも各施設の協力がなくてはなりませんと思いました。というのも率直な感想としては研修やグループの集まりも通常勤務に支障が出てしまうようであれば、継続性のないツールができてしまうと思いました。研修からは今までの自分の支援、同僚、上司の支援を客観的に見ることができまた多くの他施設での問題や支援方法を吸収できました。これからの自分の支援に繋がるよう心掛けたいと思います。

今回権利擁護セミナーに参加することにより、現場での普段行っている支援が、利用者主体で行われているかを改めて見つめ直し、支援の在り方を再検討する良い機会となった。

またツール作成に際しては、利用者の権利を擁護することの意味や実践することの難しさを感じ、普段何気なく行っている支援一つ一つの積み重ねが、利用者の権利擁護の繋がっていくことを確認することができ、大変有意義な研修となった。

権利擁護を推進したり、権利侵害を予防しようとしたりするのにこんなに時間や労力を費やす必要はないものなのか。という思いが生じた。職場の現状を思い、強くジレンマを感じるようになった。ここに爽やかな風をどう吹かせれば良いのか？ツールの活用云々ではなく、部署を越えて日常的に話をする機会をつくり、繰り返しすることに尽きると思う。そしてそこには爽やかな風の前に嵐が吹き荒れたりするかもしれない。その後に熱風が吹くのもいいかもしれない。風を起こす土壤ができるのちに、爽やかな風が吹くのかもしれない…。

今回の研修を参加してこのツールを作成する過程の中で、他施設で働いている方々の利用者に対する思いや話を聞いたり、利用者自身にアンケートをとて生の利用者の声を聞いて、自分自身にとって有益な研修になった。他施設の職員の方と交流が少なかった私にとっては、他の施設に見学に行った際に見た一生懸命仕事に取り組んでいる利用者達がすごく印象的で、利用者の持つ可能性を引き出すために支援者の役割が如何に重要性の高いものであるかを改めて再認識した。今回の研修を通して、私自身の利用者への支援のあり方の振り返りにもなったし、利用者の新たな可能性に気付くことができてとてもよかったです。今回の研修で感じた。

ツール作成にあたり、改めて利用者の権利を擁護することを意識し、知らなかつた事を知り、忘れるがちだった事を思い起こし、その大切さを気づくことの出来た機会でした。ツールを、より身近で、使ってもらえるものをとの目的にさまざまなケースを持ち出しての検討をしたので、自分自身が日頃壁にぶつかっているケースについても、色々なアドバイスや、アイデアのソースとなったり…で、とても実りの多い集まりでした。これらの経験等財産を日頃の支援に活かしていきたいと思います。このような集まりに参加させていただき、感謝しています。

自分自身が意識していた権利擁護を改めて考える時間になった。

誰にとっての権利擁護なのかを話し合いを持つことで、利用者のためになる支援ができる。より良い権利擁護につながる大切さを知ることになった。びぐれっと以外の職員との交流も自分にとってプラスになり、良い刺激になった。

今後も話をすること、聞くことを忘れずに利用者さんの為になる支援を続けたいと思う。

〈例〉1 何にこまつているか？(ニーズ・課題)

1週間前から作業中にもかかわらずウロウロし着席できなくなっている。
(本音：作業中なのに座ってくれない。)

No. 2 本人について分かっていること

No.	本人について分かっていること	それが原因だか考えてみよう	普段どのようにことを意識して対処しているか
1	年齢・性別・施設利用年数	28歳・男性・13年	家族に対しての関心は薄く、情報は結構でも提供して理解は困難。
2	生活環境・状況	母親病弱	食事は完食できており、落ち着いて食せてることからも健康面での影響は考えにくい。
3	健康状態	良好	例年行っている行事であり、本人も楽しめている。しかし以前のイベント前にも同様の行動が見られていなかった。
4	本人が気になっていること	1週間後の旅行	旅行を控えているため強く意識している可能性はある。
5	苦手な事	見通しの疎かないこと	本人に分かりやすい方法(写真の提示)での説明
6	興味あること	予定表	今年度から担当職員が変更となり、現時点においても職員との関係は確立できていない。
7	対人関係	関係作りが苦手	今年度から担当職員が変更となり、現時点においても職員との関係は確立できていない。
8	障害種	自閉症	困難に向かって強い。
9	コミュニケーション能力	要支援	口答でできれば、不安定になら上手に答えることができる。
10	予定の確認方法	個別対応	他の利用者と同様の説明では理解困難。
11			周囲と同様の情報提供のみでは理解困難。
12			個別での対応を行っている(写真、イラスト等)
13			
14			

No. 3 どんなん支援をしますか？

4	全体での説明は行ったが、個別対応は行っていない。	しゃり等の配布の時期を伝える。行き先のイメージを持ちやすくなるように写真やイラスト等を使用し説明する。
5	同上	同上
6	同上	同上
10	同上	同上

7

5

④ の中で気になったもので更に出来ることがあれば可能な限り書き出してみよう！

No. 4 全体での説明は行ったが、個別対応は行っていない。

5 同上

6 同上

10 同上

解決したニーズ・課題

残されたニーズ・課題

ウロウロが解消された。

旅行の話題が気になりすぎてしまふ。

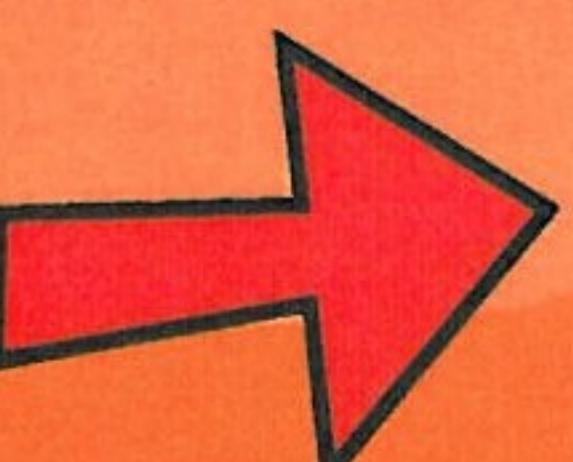
おしゃべりが増えた。

作業効率が落ちた。

手書きのよくな文字で書いたあるところが皆さんが記入するところよ。

機知子ちゃん

怪
傑
○
○
○



ガルガルするべし



No. 6 どんなん支援をしますか？

4	しゃり等の配布の時期を伝える。行き先のイメージを持ちやすくなるように写真やイラスト等を使用し説明する。
5	同上
6	同上
10	同上